

邵建国 / 主编

日本学研究论丛

第九辑



社会科学文献出版社
SOCIAL SCIENCES ACADEMIC PRESS (CHINA)

邵建国 / 主编

日本学研究论丛

第九辑



社会科学文献出版社
SOCIAL SCIENCES ACADEMIC PRESS (CHINA)

图书在版编目 (CIP) 数据

日本学研究论丛. 第9辑 / 邵建国主编. —北京:
社会科学文献出版社, 2014. 8
ISBN 978-7-5097-6111-3

I. ①日… II. ①邵… III. ①日本—研究—
丛刊 IV. ①K313.07-55

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2014) 第 141822 号

日本学研究论丛·第九辑

主 编 / 邵建国

出 版 人 / 谢寿光

出 版 者 / 社会科学文献出版社

地 址 / 北京市西城区北三环中路甲 29 号院 3 号楼华龙大厦

邮政编码 / 100029

责任部门 / 全球与地区问题出版中心 (010) 59367004 责任编辑 / 王晓卿 胡 亮

电子信箱 / bianyibu@ssap.cn

责任校对 / 郑建苹

项目统筹 / 王晓卿

责任印制 / 岳 阳

经 销 / 社会科学文献出版社营销中心 (010) 59367081 59367089

读者服务 / 读者服务中心 (010) 59367028

印 装 / 三河市尚艺印装有限公司

开 本 / 787mm × 1092mm 1/16

版 次 / 2014 年 8 月第 1 版

印 次 / 2014 年 8 月第 1 次印刷

书 号 / ISBN 978-7-5097-6111-3

定 价 / 69.00 元

印 张 / 12.5

字 数 / 213 千字

本书如有破损、缺页、装订错误, 请与本社读者服务中心联系更换

 版权所有 翻印必究

序 言

2013年11月2~3日,北京外国语大学日语系成功举办了题为:“文化交流的过去·现在·未来”的国际学术研讨会。来自日本法政大学、中国社会科学院、清华大学、北京语言大学、洛阳外国语学院、大连外国语学院、河北大学、浙江外国语学院等20所高校和研究机构的100多名专家学者参加了这次学术研讨会。

这次学术研讨会特别邀请了日本法政大学川村凑教授和中国社会科学院文学研究所赵京华研究员做主旨发言。川村教授的演讲题目为《从布莱基斯顿线看“线”和“墙壁”》;赵京华研究员的演讲题目为《战后东亚的政治与文化体制——以日本为视角》。两位学者的演讲不仅让从事日本文学研究的各位教师感到受益匪浅,而且使他们深受启发。

这次学术研讨会的学术报告分三个论坛进行,即“日本语言·日语教育”“日本文学·社会文化”“博士生论坛”。本论文集所收录的论文主要是与会学者在会议论文的基础上修改而成的稿件,所以篇章安排上也沿用了三个论坛的名称。

论文集中也有几篇是北京外国语大学日语系教师和博士生最近撰写的论文,展现了他们在各自的专业研究领域的最新研究成果。虽然有些文章还有些稚嫩,但刊登出来供大家讨论也是很有意义的,还望各兄弟院校的专家学者予以指正。

通过举办学术研讨会来加强全国各高校日语教师之间的联系,互相交流

教学改革的经验 and 学术研究的成果,对于提高我国的日语教学水平和日本学研究水平是必不可少的。今后北京外国语大学日语系还将举办不同主题的日本学研究的专题研讨会,希望全国各兄弟院校的教师同行积极参与,以便我们共同进步。

北京外国语大学日语系主任

邵建国

目 录 *Contents*

日语语言・日语教育

日本における中国語通訳の現況および通訳に求められること	古川 典代 / 3
日本語のスピーチレベルに関する研究の概観.....	陳 新 / 18
日语教学中主体文化与客体文化的定位.....	刘丽丽 / 27
外语学习者自主学习能力的培养 ——以日语专业基础阶段的日本概况课为例	张慧芬 / 36
明治时期日语中「性」的用法.....	杨超时 / 44
「へてみる」の否定形式についての一考察	張亜麗 王婉莹 / 54
试论新形势下跨文化交际与日语专业人才培养目标	朱世波 / 65
论大学日语专业本科学生培养特色.....	王婉莹 / 75

日本文学・社会文化

我国高校日语系的日本动漫研究视角分析.....	徐 园 / 83
島崎藤村『家』に見る家父長像.....	宋 剛 / 93

小林爱雄视野下的中国形象

- 以《中国印象记》为中心…………… 吴光辉 吴菲吟 / 100
- 日本の商道德について…………… 楊遠霞 / 112
- 情報のとらえ方
- 一日中間のコミュニケーションギャップの解消をめざして—
…………… 張慧霞 / 121
- 浅析日本的“网络选举解禁”及其给日本政治带来的影响
…………… 魏 然 / 131

博士生论坛

- 《欧洲语言共同参考框架》与我国日语测试改革 …… 张 卫 / 149
- 《太平记》中的忠臣观 …………… 张静宇 / 158
- 「カラ節」「ノデ節」における絶対テンスと相対テンス
…………… 唐 亮 / 169
- 论大伴旅人《赞酒歌》中的“贤” …………… 尤芳舟 / 180

日语语言・日语教育

日本における中国語通訳の現況および通訳 に求められること

神戸松蔭女子学院大学 古川 典代

【要 旨】 筆者は日本において長年にわたり中国語通訳翻訳業務をこなしつつ、インタースクール（通訳者養成学校）や大阪外国語大学（現大阪大学外国語学部）、同大学院および同志社大学、本務校の神戸松蔭女子学院大学などで中国語通訳翻訳の授業を担当し、後進育成にも力を注いできた。また、2011年の中国研修中には、北京語言大学大学院や北京大来（通訳養成学校）でも授業をする機会を得、日中間の通訳者養成方法の相違や需要の差などを実感することとなった。

近年、中国の大学院において通訳の学位を授与するようになったが、通訳翻訳者育成のカリキュラムの構築や、指導者の選定などに苦戦している現況を目の当たりにした。そのため、この分野においてすでに数十年の実績のある日本の手法を紹介するとともに、互いのメリットを学びあうことを目的とし、本稿を発表する。

【キーワード】 通訳トレーニングメソッド 通訳の需要 通訳者の資質

【筆者紹介】 古川 典代 文学修士 神戸松蔭女子学院大学文学部准教授。
会議通訳者。主な研究分野は 中国語教育 教材開発 教育法開発 日
中通訳翻訳。

一 はじめに

ビジネスを中心に日中間の交流が盛んになるにつれ、日中両国ともに通訳翻訳を生業とする語学要員の育成に力を注ぐようになってきた。とりわけ、ここ数年では中国の主要大学の大学院においてMIT (Master of Translation and Interpreting) 学位が授与されるようになり、複数の大学で通訳翻訳コースの開設や通訳者養成が盛んに行われるようになってきた。同時通訳のトレーニングができるブースを持った教室の設置や、日本の国際交流基金から提供された『プロジェクトX』のDVDなど、日中・中日通訳翻訳のトレーニングのハードは年々整いつつある。しかしながら、担当教員の実務経験が不足していたり、通訳トレーニングメソッドも熟知されないまま、政策に流されてカリキュラム開設が拙速になされている現況に苦慮しているようである。

日本では、まずは国際会議を運営する企業がプロの通訳者を養成する学校を併設し、レベルに応じたニーズに応える形で実践の場を提供してきた。その後、近年は大学や大学院でも同様のコースが設けられたが、大学院ではとりわけ実務者養成よりも通訳研究者養成の傾向がある。

筆者は日本と中国の日中通訳者養成状況とその活躍現場のそれぞれの現況を知る立場から本稿を執筆し、今後より良い通訳翻訳者を世に送り出すための一助になることを願う。

二 日本の中国語通訳について

通訳の種類

【分野別】

通訳を種類分けすれば以下の8種類に分けることができる。

①会議通訳

昨今、必要とする言語が日本語と中国語の二言語のみの会議の頻度は減少し、他言語を含む三カ国以上の言語が飛び交う国際会議の需要が多い。日・中・英もしくは日・中・英・韓の組み合わせがほとんどとなっている。

②通訳ガイド

唯一国家資格が必要な分野。資格については後述を参照のこと。

③司法通訳（法廷通訳）

目下のところ特に資格を必要としないが、経験豊富な先駆者からの紹介から面接などを経て採用される。人権にかかわることから、ブラッシュアップのための研修も多く開催されている。

④放送通訳

主として首都圏在住者に限られ、放送局に詰めて海外から送られてくるソースについて同時通訳または時差通訳する。ソース到着後 30 分以内の放送については「同時通訳」の名が冠せられる。

⑤芸能通訳

映画祭や、スター、タレントのインタビューなどを訳す。中国語の場合には、香港からのスターのために標準語以外に広東語の需要もある。

⑥スポーツ通訳

東アジア大会、アジア大会、ユニバーシアード、オリンピック、世界陸上、世界水泳、世界卓球など、大きなスポーツイベントの際には、入賞者の公式インタビューをはじめ、選手のアテンドまで各レベルの通訳者が必要とされる。大会事務局からの雇用以外に、マスコミから直に雇われる通訳もあり、回数を重ねた後、スポーツ専門になっている通訳者も見受けられる。

⑦企業通訳

日中ビジネスに関わる企業が社員として採用し、日常の業務をこなしながら、必要に応じて通訳もする。自社事業に詳しいので有利といえる。

⑧医療通訳（コミュニティー通訳）

病院などが地方自治体に依頼して、必要時に地域のボランティア通訳を呼び出したり、電話通訳などで対応したりするもので、担当自治体が定期的に研修を行って通訳者の質の向上を図っている。

【雇用形態】

A. 有償通訳＝プロの通訳者 B. 無償通訳＝ボランティア通訳

プロの通訳者は報酬がつくが、ボランティア通訳者は持ち出しというわけではない。通常は食事と交通費の手配があり、場合によっては若干の日当も付く。しかし、報酬の有無は責任の有無に繋がるものであるため、主要な場面はプロの配置が必至となる。

また、プロの通訳者でも「専任」と「フリーランス（＝派遣）」の二種類があり、多数のエージェントに所属するフリーランスの通訳者の割合が圧倒的多数を占める。

【通訳の形態】

通訳の形態は一般に以下の4種類がある。

①逐次通訳

スピーカー（＝話者）が話を切った時点で、速やかにテンポよく訳出する。スピーカーによっては一文ずつ律儀に区切ってくれる場合もあるが、長くしゃべりすぎたり、通訳が入ることを失念していたりする。そのため、通訳者はタイミングよく口を挟んで気づかせたり、場合によってはサマリーという手法で全訳をせずに要約を発表するなど、機転を利かせなくてははいけない。

②同時通訳

会議などでとられる形式で、専用のブース内からマイクを使って同時進行で通訳していく方法。リスナー（＝聞き手）は、イヤホンに付いたチューナーで対象言語にチャンネルを合わせて聞く。ただし、多言語で同時通訳している場合、例えば中国語話者の話を英語で聞きたい場合などは、中国語⇒日本語⇒英語の作業で届くため、若干の時差が生じたり、最終的にはサマリーになっていることもある。

言語ごとにブースを使用し、一つのブースに二人か三人の通訳者が入り、一人15分～20分ぐらいのペースで担当する。自分の担当時でない時も、隣で一緒に聞きながら数字や固有名詞をメモして担当者に示すなど、協力体制が必要。

ブースが常設されていない会議室でも、エージェントが仮設ブースを設置することが可能なので、同時通訳の会議は開催頻度が高い。

③ウィスパリング

同時通訳の一種で、会場に対象言語話者が一人もしくは少数しかいない場

合、通訳者がリスナーのそばに位置して耳元で通訳する。ウィスパリングの呼び名では囁く（= whisper）から。

リスナーからの質問にも答えつつ、進行状況を通訳していくことから、通訳者は聖徳太子のようにいくつもの音声を聞き分けなくてはならず、加えて会場の雑音もあるため、通訳者は高度の集中力を要することになる。

④リレー通訳

記者会見場に多言語のスピーカーがいるときなどに使われる手法。公式のスポーツ大会では上位入賞者の公式インタビューが義務付けられている。対象言語の選手が種目ごとに入れ替わるので、通訳者はインタビュールームの傍らで待機し、対象言語の選手が入場してきたらさっと横について通訳する。たとえば日本で行われた世界選手権の入賞者インタビューで、1位が中国人、2位がアメリカ人、3位が日本人といった場合には、中国語（日⇄中）と英語（日⇄英）の通訳者が選手の横に付き、それぞれの言語を双方向に訳出します。したがって中国人の発言は、中国人⇒中国語通訳（中⇒日）⇒日本人、さらに英語通訳者（日⇒英）⇒アメリカ人と伝わっていく。

この場合、中国語⇒日本語⇒英語、または英語⇒日本語⇒中国語のプロセスが生じるが、スポーツイベントの基調言語が英語だったりするシチュエーションでは中国語⇄英語の通訳者がいれば時間の節約になり、今後この需要が見込まれる。

三 通訳養成に使われる通訳トレーニング方法

中国語に限定せず、他言語の通訳養成にも活用されている定番の通訳トレーニングメソッドは、主として以下の8種類ある。簡単にその方法と目的を記す。

①クイックレスポンス（Quick-Response）/ 快速反応

〈方法〉単語や短文を聞いて瞬時に訳語を言う。

〈目的〉a) 瞬発力（反応）の強化。b) 語彙力、表現力の増強。

②ラグging（Lagging）/ 時差復述

〈方法〉単語や短文を聞いて、「一つ遅れ」や「二つ遅れ」でリピートする。慣れてきたら、「一つ遅れ」や「二つ遅れ」で「訳語」を言う。

〈目的〉記憶保持力の増強。

③シャドーイング (Shadowing) / 跟述・影子練習

〈方法〉流れてくる音を追いかけて、聞いたままを重ねて口に出して再生していく。聞きながらほぼ同時にあるいは少し遅らせて聞こえたものを再生するため、耳と口とは瞬時に別々の言葉を処理することになる。

〈目的〉a) 発音、イントネーション、強弱、リズム、速度などの音声強化。

b) 同時通訳の基礎訓練として、聞くことと話すことの分離作業の練習。

④リプロダクション (Reproduction) / 复述

〈方法〉中国語の文章をフレーズやセンテンスで切り、すぐさまそれを口に出して再生していく。

〈目的〉a) リスニング力の強化。細部にまで集中して聞く必要があるので、音声認識力が向上する。

b) 文構成力の養成。構文を把握していないと正しく再生できない。

c) 記憶力の向上。逐次通訳に必要な集中力と情報保持力を向上させる。

⑤ディクテーション (Dictation) / 听写

〈方法〉中国語を聞いて書き取る。

〈目的〉a) リスニング力（音声認識力）の向上。

b) 漢字や文章記号を正確に書く。

⑥サイトトランスレーション (Sight-translation) / 视译

〈方法〉原稿を渡された端から、全体を見渡す間もなく訳出していく。

〈目的〉a) レセプションのスピーチ通訳、会議の発言稿など、その場でわたされる事が多く、全体を把握する間もない折にも、落ち着いて対処可能なように。

b) ウィスパリングや同時通訳の情報処理方法を学ぶ。

⑦サマリー (Summary) / 摘述・大意

〈方法〉まとまった文章を聞いたあと、全体を要約する。

〈目的〉キーワードの把握と起承転結の流れをまとめる力を養成する。通訳時に核心を外さない。しかし、場合によっては枝葉を削ぎ落とす必要もある。文章の内容認識力・理解力の向上になる。

⑧ノートテイキング (Note-taking) / 筆記

〈方法〉 文章を聞きながらメモを取る。メモに沿って内容を再生する。

〈目的〉 聞くことと、手で筆記する作業を分離して作動させる。効率的にメモできるよう、記号、図を駆使するなど見本を示したうえで、個々で工夫させる。

四 日本における通訳養成機関の実態

日英通訳の場合はすでに大学院で通訳コースを開講しているところが多い。たとえば東京外大、神戸市外大、立教大学、大東文化大学、神戸女学院大学、関西大学など。ただし通訳理論の研究が多く、実践的科目が少ない。プロの通訳を養成するというより、通訳翻訳の研究者養成が目的といえる。

〈大学の中国語専攻〉

(国立) 大阪大学、東京外国語大学

(公立) 愛知県立大、神戸市外大、北九州市立大

(私立) 大東文化大、神田外大、杏林大、明海大、麗澤大、拓殖大、北海道文教大、京都産大、京都外大、関西大、摂南大、名古屋外大、南山大、長崎外大

そのほか、外国語学部中国語学科の名称ではなく、グローバルコミュニケーション学部、中国語コミュニケーション学科、中国ビジネスキャリアコース、アジア言語文化専攻中国コースなど、種々多様な専攻名を数えると 100 校近くにのぼる。近年、虚学と言われる文学部は不人気となり、実学を求める傾向にある。そのため、実学志向の学部学科が新設され、大学が専門学校化しつつある。

〈大学院の中国語通訳翻訳コース〉

(国立) 大阪外国語大学 2005 年～ 2009 年 (大阪大学合併時に消滅)

(私立) 杏林大学 2008 年～

〈民間の通訳養成学校〉

インタースクール（大阪・東京・京都・名古屋・広島・福岡・仙台）

サイマルアカデミー（東京・大阪）

アイ・エス・エス（東京・横浜）

コングレインスティテュート（大阪）

上記の民間の通訳養成学校では会議運営会社が併設校として設置している。そのため受講生は OJT（= on the job training）の機会が多い

2012 年以降は中国語学習者数が減少傾向にあり、2013 年度の大学における中国語履修者が全国レベルで 2 - 3 割減。民間の通訳学校にもその余波が見受けられる。上記民間通訳学校のコングレインスティテュートの通学クラスは 2013 年 3 月に閉講し、完全カスタマイズ化した。

五 日本における中国語通訳の需要

〈一般企業〉

企業通訳雇用の増加により、外部からのプロの通訳者要請は減少傾向にある。とりわけ日中ビジネスに携わる各社が、日本に留学して学位をとった中国人を社員として雇用することが多く、通常業務における通訳ニーズはこの社員らがこなしている。人手が足りない展示会や大規模商談会、もしくは同時通訳のスキルが必要なセミナーや国際会議時にのみ社外に発注する。

〈公共団体 / 政府関係、都庁、府庁、県庁、市役所など〉

通常、公共団体に語学のエキスパートをその職で雇用することは少ないため、訪日団対応や国際会議などで一定のニーズが見込まれる。現在日本におけるフリー通訳者は日本人より中国人の方がやや上回る人数が登録されているが、公共団体では日本人を希望することが多い。微妙な日本語特有の言い回しなどを正確に伝達して欲しいと考えるからである。また、各自治体の国際交流課、国際交流センターなどに登録されているボランティア通訳のブラッシュアップのための通訳セミナー講師の要請も多数見込まれる。